

# コウホネ

基原植物学名: *Nuphar japonicum* De Candolle

基原植物和名: コウホネ(スイレン科 コウホネ属)

薬用部位: 根茎

生薬和名: センコツ(川骨)

主な薬効: 利尿、浄血・鎮静

主な成分: 〈アルカロイド〉nupharidine, deoxynupharidine 〈タンニン〉galloyl glucose

漢方処方: 治打撲一方



◀図1.コウホネ  
(東京理科大学薬草園)  
2021/5/21 撮影

▼図2.川骨(生薬標本室)



**植物の特徴:** 北海道から九州の池や川に幅広く分布する多年生の水草。しばしば観賞用として庭園などで栽培される。葉は輪生で、水から上に出る抽水葉(水上葉)と水面下に存在する沈水葉(水中葉)に区別される。抽水葉は大型の長卵形で暗緑色、沈水葉は膜質で細長く、波緑。泥の中の根茎が背骨に似ていることから生薬はセンコツ(川骨)と呼ばれ、植物和名のコウホネも川骨(かわほね)が変化したものである。また、徳川家の家紋として知られる三つ葉葵は、ウマノスズクサ科のフタバアオイ(*Asarum caulescens*)をデザインしたものであると知られているが、4代家綱~8代吉宗まではフタバアオイではなくコウホネの葉をデザインしたものであると考えられている。

**生薬の特徴:** 性状は不整円柱状の根茎を縦割りした片状。外面は暗褐色、断面は白色~灰褐色。軽く、海綿のようで折りやすい。折面は平らで紛性。弱臭。味はわずかに苦く不快。産前産後の出血、月経不順などに対して用いられる。川骨が含まれる漢方処方の一例として挙げられる治打撲一方は、駆瘀血、止血、利尿、強壯作用があり、打撲や捻挫などに用いられる。

## 参考文献

日本薬局方

生薬単 第2版 原島広至 NTS

薬用植物学 改訂第7版 南江堂

現代医療における漢方薬 改訂第2版 日本生薬学会